

春の訪れ

「暖冬異変」と呼ばれ、暖かい日が続く、きょう、このごろ、心なしか小川の水もぬるんだようです。春の日差しを浴びて水鳥たちは思う存分、羽根を伸ばしています。

暖冬のせいで例年より一週間は開花が早いといわれる各地の梅林、関東随一のウメの名所借楽園は20日から梅まつりが始まり、日曜日ともなると、アベック、家族連れなどで大にぎわいです。多摩川を見渡せる純日本式の庭園を誇る日野市の百草園は今が満開、モデル撮影会もあり、アマ・カメラマンもここが腕の見せどころと大いに張切っています。

各地の花だよりと共に春はもうそこまでやってきているようです。

道路なんかいらぬ

高速道路はノロノロ低速道路となりランプ閉さも日課。いたる所で道路拡張工事が行なわれ、運転手はイライラ、果ては路上で口論、みんなあたりまえのようになってしまった東京の道路。車の騒音も排気ガスも年々その激しさを増し、今や車の機能も、道路の機能も失なわれ人間の生活をむしばむ巨大な流れとなってしまった。それでもどンドン建設され、拡張される道路。そこから住民の悲鳴が聞こえてこない方が不思議なくらい。港区乃木坂。今ここでトンネル道路が建設中だ。住民は、騒音と排気ガスの対策が生ぬるいと反対し、ついに、都は低公害車時代のくるまで使用しない事を決めた。目黒・白金トンネル。ここはトンネル道路がもたらす公害の代表的な道路だ。上に高速道路下には都道のこの白金トンネル道路に騒音防止板が設けてあるが、「全然効果はありません。雨の時、車のはねる水をとめる位、もう慣れました。」と近くの主婦はあきらめ顔。世田谷区北鳥山。都住宅供給公社の鳥山北団地の真中を貫ぬく計画の中央高速道路の一部区間 800 m が団地住民の反対にあって今だ工事ができないでいる。

団地の住民は、

「ここに中央高速道と都道が二段構造で走るなんて団地に入居する時、全然知らされなかった。私達は今ある環境を守る何の対策も示されないで、通すわけにはいかない。私達は、道路は欲しくない。」

道路公団は

「住民と話し合って騒音や、排気ガスの対策を示していく。」

東京都は

「道路はこれまで車優先だった。そういう考えを根本から改めて住民と話し合って対策を考えていく。」
道路が建設され、拡張されても、一向に交通混雑が解消されないマンモス都市東京。車による公害は激化する一方。

そんな中で、「もはや生活をむしばむ道路なんかいらぬ。」と訴える住民の声は、過密都市東京のパンク寸前の悲鳴かも知れない。